

八戸ダムだより

第2号 平成18年2月
島根県浜田土木建築事務所
八戸ダム管理所

ダムによる洪水調節

ダムによる主な洪水調節方式には、一定率一定量調節方式、一定量放流方式、自然調節方式（ゲートレス方式）があります。八戸ダムの洪水調節方式は、ゲート放流による一定率一定量放流方式にて運用されています。

「一定率一定量調節方式」の八戸ダムでは流入量 $330\text{m}^3/\text{s}$ までは流入量に対して一定率で貯留を行い、流入量 $720\text{m}^3/\text{s}$ 以上は $330\text{m}^3/\text{s}$ の一定量の放流を行う調節方式です。

昭和33年6月30日から7月1日の八戸川流域の集中豪雨により八戸川筋は各所の堤防決壊、越流により甚大な被害を受けた。

この時の流域平均日雨量225ミリを治水計画の基礎とし、さらに大きな日雨量270ミリを対象に洪水調節計画を樹て、ダム地点の洪水量毎秒1,190立方メートルのうち毎秒860立方メートルをダムに貯め、毎秒330立方メートルだけを下流に流します。これにより下流江尾橋で、毎秒2,120立方メートルの洪水が、毎秒1,260立方メートルに調節され

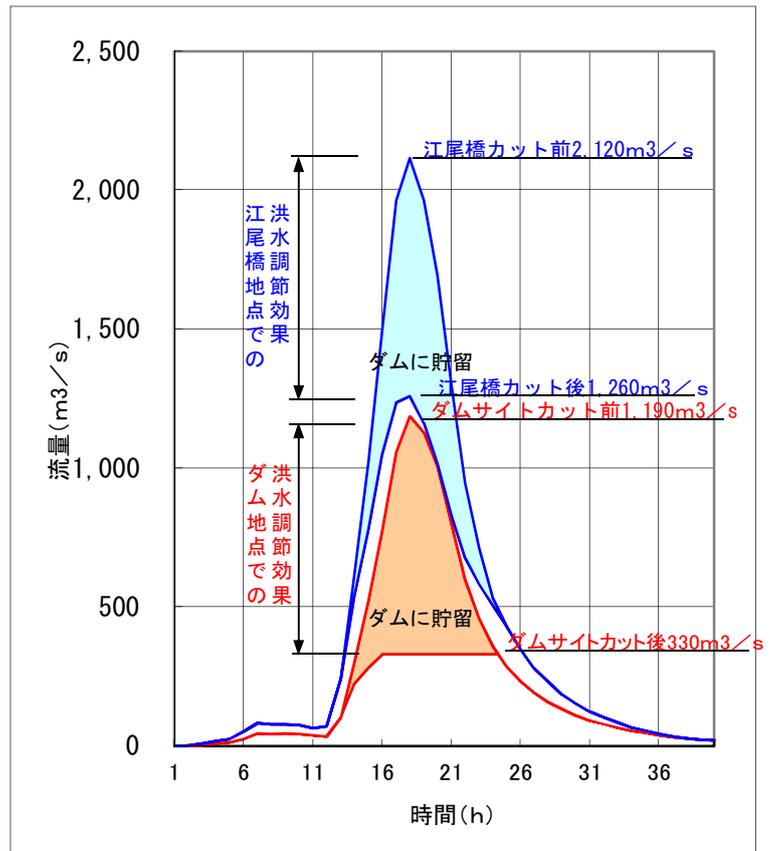
一放流設備一



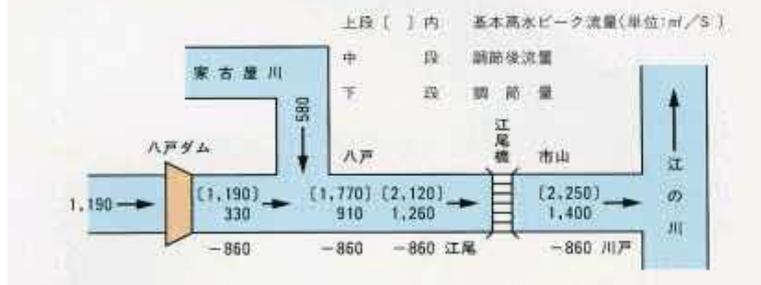
常用洪水吐（コンジットゲート2門）



非常用洪水吐（クレストゲート3門）



計画高水流量配分図



昭和47年災害

昭和47年7月の梅雨前線は、中国地方の大部分に集中豪雨をもたらし、殆どの地域で日雨量・総雨量が既往最大の異常気象でした。この時の気圧配置は中国地方に停滞する梅雨前線上を次々に小さな低気圧が通って石見地方に雷雨性の豪雨をもたらし、7月9日～13日の間、前線の位置は山陰沖から瀬戸内ぐらまでの間を移動したに過ぎず、天気図はほとんど変わりませんでした。この豪雨で山地や丘陵地では土壌が飽和に達して斜面崩壊の被害が相次ぎました。島根県全体の被害は、死者26名、負傷者79名、行方不明者2名、流失家屋95戸、全壊家屋559戸、床上浸水11,845戸、床下浸水26,449戸、被害総額は840億6,432万円に及びました。

被害状況（江津市桜江町川戸地区）



編集後記



例年にない12月下旬からの大寒波襲来による積雪のため八戸ダム周辺もすっかり雪景色となりました。また、ダム湖（桜井湖）ではカモ、オシドリなど渡り鳥の姿も見られます。

さて、1月13日～14日の累計雨量（流域平均）31.8mmの降雨と気温上昇に伴う融雪により最大流入量83.2m³/sとなり、放流には至りませんでした。ダム貯水位が6.3m（貯水量6,020千m³）上昇いたしました。

今後、春先に向けて融雪等による放流の可能性があるので、その際にはご協力をお願いいたします。